

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 元年 6 月 11 日現在

機関番号：35404

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K16823

研究課題名(和文) 日本社会党による国会質問の実証研究 榑崎弥之助文書の分析を中心として

研究課題名(英文) Diet interpellation of JSP -With a focus on NARAZAKI Yanosuke

研究代表者

篠原 新 (SHINOHARA, Hajime)

広島修道大学・国際コミュニティ学部・准教授

研究者番号：80608927

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：これまでの日本社会党に関する研究ではイデオロギーや政党組織に注目が集まる一方で、社会党が行ってきた国会質問についてはほとんど注目されてこなかった。本研究では、政府への鋭い追及で「国会の爆弾男」と呼ばれた榑崎弥之助元衆議院議員の資料を分析し、社会党による国会質問を実証的に研究した。その結果、榑崎が外交安保だけでなく地方自治にも関心を抱いていたこと、さらには、非核三原則をめぐる国会質問で、榑崎が計画していた質問の全体構造やその後の政府方針の変化、さらには榑崎が計画はしていたが実際には言及できなかったことなどが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでは資料的な制約により日本社会党の行ってきた国会質問についてはあまり注目されてこなかった。本研究では、「国会の爆弾男」と呼ばれた榑崎弥之助元衆議院議員が残した資料を検証することで、日本社会党による国会質問を実証的に分析した。その結果、榑崎が独自に調査を行い、論理と事実に基づいて質問を組み立てていた一連の過程が明らかになった。また政府側もこれまでの方針を変更するなどの対応を余儀なくされていたことが示された。一方で、榑崎が法解釈論的な議論に終始し、社会党が当時の最大野党として自らの政策を分かりやすく説明することに失敗していたことも明らかになった。

研究成果の概要(英文)：Many studies about Japan Socialist Party have focused on ideology and the party organization. But few studies have focused on the Diet interpellation of Japan Socialist Party. This research was undertaken in order to analyze the Diet interpellation of Japan Socialist Party with based on the Materials of NARAZAKI Yanosuke former member of the House of Representatives. He was a famous politician because of sharp questions to the government. As a result, it is revealed that NARAZAKI had an interest in local autonomy as well as diplomacy and security. Furthermore, the whole structure of NARAZAKI's questions about the three non-nuclear principles became clear.

研究分野：戦後日本政治

キーワード：日本社会党 国会質問 非核三原則 55年体制

1. 研究開始当初の背景

これまでの日本社会党(以下、社会党)の研究は、ある問題意識を共有してきた。それは、かつて最大野党であった社会党が、なぜ衰退したのか、というものである。この問いについては、大きく二つの視角から検討がなされてきた。一つは、社会党のイデオロギーに注目するものであり、冷戦後もその硬直したイデオロギーを転換できなかったことに衰退に要因を見出そうとするものである。もう一つは、政党組織に注目するものであり、社会党が依存していた労働組合の衰退に、同党の衰退の要因も見出そうとするものである。これらの研究により、社会党が衰退した要因が明らかになりつつある。

しかし、これらの研究は、「なぜ社会党は衰退したのか」という問題意識を共有していることもあり、社会党が国会で何をしてきたのか、という点には踏み込めていない。たしかに、社会党は多くの問題を抱えた政党であった。先行研究が指摘するように、社会党は、硬直したイデオロギーの呪縛から逃れることができず、また、労組依存体質も克服できなかった。しかし、社会党は全く無力な存在というわけではなかった。政権交代は果たせなかったが、国会の場、とりわけ国会質問の場で政府や与党を追及し、隠蔽された事実や腐敗などが明らかになったことも少なくない。

こうした社会党による国会質問の実態を先行研究は分析できていない。この原因は、資料的制約にあると考える。閣僚等を経験した自民党議員は引退後や死没後も研究対象として注目されることが多く、こうした議員の個人文書は、国立国会図書館や出身地の図書館、あるいは出身大学等に保存されることが多い。これとは対照的に、社会党をはじめとする野党議員は、閣僚等を経験していないこともあって引退後や死没後に注目されにくい。そのため、野党議員の文書は個人やご家族が保存することになり、散逸しやすくなっている。それゆえ、実証的な研究が進めにくい状況にある。

こうした中、研究代表者は、2007年、外務省密約事件やロッキード事件、リクルート事件など数々の疑惑追及で知られ「国会の爆弾男」と呼ばれた榎崎弥之助・元社会党衆議院議員(九州帝大卒)にインタビューを行う機会を得た。2012年に榎崎は逝去したが、ご遺族により、榎崎が遺した文書(以下、榎崎文書)が九州大学大学文書館に寄贈されることになった。これにより、この文書を調査分析し、当時の国会議事録や政党機関誌(紙)と照合する形で比較することによって、国会質問の情報源や質問の組み立て方、さらには、これまで知られていなかった事柄などが判明し、社会党による国会質問の実態が実証的に解明できるようになった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、さまざまな問題や疑惑の追及で知られ「国会の爆弾男」の異名を取った榎崎弥之助・元社会党衆議院議員が遺した文書を調査分析するものである。特に、国会議事録等と照合することにより、これまで資料的制約から明らかになっていなかった日本社会党による国会質問の実態を実証的に解明する。より具体的には、以下の2点を明らかにすることである。

第一は、榎崎の国会質問用ノートと国会議事録等を照合し、議事録等には記載されていない事柄や質問の組み立て方を解明することである。榎崎は「国会の爆弾男」として有名であったため、彼が国会質問に立つときは政府与党側もかなり警戒していた。そして、榎崎の追及が核心に迫り、政府側もこれ以上の答弁が難しくなると、自民党議員の動議により質問の途中で「審議打ち切り」となることが何度もあった。しかし、榎崎の手許にあった国会質問用ノートにはその後にする予定だった質問等も記載されている。こうした点を国会質問用ノートと議事録を照合する形で明らかにする。また、国会質問用ノートには、政府与党側の答弁をいくつか想定したうえで、質問もそれに対応して複数用意していることが記されている。こうした質問の組み立て方も国会質問用ノートと議事録を照合して解明する。

第二は、国会質問用ノートと榎崎が集めた資料及び第三者から提供された資料を照合し、情報源や提供された情報がどのように国会質問につながっていったのかを明らかにすることである。これまで、実際にどのような形で榎崎に資料が提供され、それがどのように国会質問へとつながっていったのかは解明されていない。そのため、国会質問の情報源や、榎崎に提供された情報がどのように国会質問につながっていったのかを明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は4つの段階で構成されている。前述の研究目的を達成するため、第1段階では、ご遺族から榎崎文書の残りを収集する。第2段階では、約50年前の文書も含まれる榎崎文書がこれ以上劣化しないように補修作業を行う。第3段階では、国会質問用ノート、榎崎自身が集めた資料、第三者から提供された資料、の種類ごとに番号を振り、年代順に整理する。第4段階では、これらの資料と国会議事録等を照合し、これまで解明されていなかった事柄や、国会質問の情報源などを検証する。以下は、各段階の経過と状況である。

(1) 第1段階

当初、寄贈された榎崎文書は段ボール約30箱分であったが、自宅や倉庫等にも相当数が残されており、直接出向いて確認し、そのうえで収集した。また、この収集過程で、榎崎をよく知る人々へのインタビューを行うことができた。具体的には、岩崎隆二郎・元福岡県労働組合評議会事務局長や、洲上貞雄・元参議院議員(社会党)村山富市・元内閣総理大臣などである。

(2) 第2段階

収集した榊崎文書は、段ボール約 50 箱分となった。このなかには、50 年以上前の書類などが多く含まれており、劣化が進んでいた。例えば、重要な資料である「国会質問用ノート」は初当選時の 1961 年のものが発見された。しかし、表紙は外れかかり、水性インクで書かれた文字は薄くなってきていた。また、メモや新聞記事がセロハンテープで貼り付けられているが、テープの劣化のため、こうした紙片がノートから脱落しかかっていた。その他にも青焼きコピーの色が抜けてきていることや、第三者から送られた FAX 感熱紙の文字が薄くなってきているなど様々な点で劣化していた。このため、これ以上劣化しないように資料の補修を行った。

(3) 第 3 段階

榊崎文書は、国会質問用ノート、榊崎自身が集めた資料、第三者から提供された資料の 3 種類に大別できることが判明した。これらの種類ごとに資料に番号を付け、年代順に整理を行った。ただし、記述内容が不明な資料が多くあり、すべての資料を整理することはまだできていない。

(4) 第 4 段階

国会議事録を検索し、榊崎が行った全国会質問のリスト（年代順）を作成した。この国会質問のリストに対応させる形で国会質問用ノートの記述を整理した。そして、議事録の内容と国会質問用ノートの内容を照合し、議事録には記載されていない事柄を洗い出した。つづいて、国会質問用ノートと榊崎自身が集めた資料及び第三者から提供された資料を照合し、情報源や国会質問の作り方などを検証した。さらに、国会議事録だけでなく、社会党や自民党などの政党機関誌（紙）とも照合し、榊崎による国会質問が与野党にどのような影響を与えていたのかを分析した。しかし、資料の量が多いため、すべての資料の整理はまだ完了していない。

4. 研究成果

個別の成果については「5. 主な発表論文等」に記しており、ここでは年度別の成果について説明する。

初年度は、文書・資料の収集及びそれらの補修を中心に行った。文書・資料の収集について、榊崎の個人後援会に関係する文書や支持団体であった労働組合に残されていた文書を収集した。これらの資料には榊崎が行った講演会のチラシや演説草稿なども多く含まれていた。現在、これらの資料の目録を作成中である。次に国会議事録から榊崎の質問・発言部分を抽出し、年代順の仮目録を作成した。これにより、榊崎が初当選した 1961 年から引退する 1996 年までの 30 年以上にわたる国会議員生活の中で、合計 463 回の質問・発言があったことが明らかとなった。また、こうした質問の 6-7 割が予算委員会の委員に就任してから社会党を離党するまでの期間（1968-1977 年）に集中していることが明らかとなった。さらには、榊崎の質問内容は、これまで考えられてきた外交・安保問題や政治倫理問題だけでなく、農業問題や教育問題、地方分権問題など幅広いテーマに及んでいることも把握できた。その後、榊崎が社会党を離党し社民連を結成してからは、短い質問時間で核心に迫ることができる政治倫理問題についての質問が多くなっていることが明らかとなった。

第 2 年度は、昨年度から引き続き文書・資料の収集及びそれらの補修に加えて、番号付けと年代順整理及び議事録等との照合に取り組んだ。この過程で、榊崎が直接、国会で質問はしていないものの、社会党の教育政策についても資料を収集していたことが明らかとなった。榊崎は大学における研究と軍事との関係を問題視し、こうしたことを防ぐために学校制度を「民主化」することにも強い関心を有していた。そこで、当時の社会党の教育政策について調査した。そして、1967 年に社会党が現行の 6・3・3・4 制を 4・5・5・4 制へと改革することを主張していたこと、そして、この改革案が日教組の強い反対により挫折に至った政治過程を検証した論文を発表した。また、2016 年 9 月 7 日には、村山富市元内閣総理大臣に榊崎による国会質問について直接、インタビューを行う機会を得た。これにより、村山と榊崎が同じ九州出身ということで強い人間的なつながりがあったことが分かった。また、榊崎が社会党を離党する過程などについても証言を得ることができた。今後このインタビューは刊行する予定である。加えて、JICA での外国人若手官僚向けの講演（2016 年 10 月 21 日）で、日本政治について講義を行った際に 55 年体制下での代表的な野党の論客として榊崎を挙げ、彼が追及した代表的な疑惑とその帰結について説明した。

第 3 年度は、榊崎文書と国会議事録との照合に取り組んだ。特に、榊崎が最も活発に活動していた予算委員会委員在任中（1968 年～1977 年）に注目して各種資料を読解したところ、1968 年に当時の佐藤栄作首相が言及した非核三原則について、榊崎が質問をつくるために勉強していたノートが発見された。これには、国会議事録には記載されていない「想定問答」も多く残されており、戦後日本政治の重要局面において榊崎がいかなる戦略をもって政府与党を追及していたのかが、かなりの程度把握できるようになった。また、榊崎が安全保障問題のみならず、当時、東京をはじめとする大都市で台頭していた革新自治体にも強い関心を有していることが明らかとなった。そのため、榊崎が地元である福岡県や福岡市を念頭に置き、地域振興に関する国会質問もしていることが分かった。これらの質問は、安全保障問題のように政府与党を鋭く追及する内容とは大きく異なり、福岡の発展のために積極的な政策を行うよう要請する内容であった。福岡についての関心はその後も持続しており、榊崎が 1983 年の福岡県知事選における奥田八二氏（革新系）の当選にも関係していることが明らかとなった。この奥田県政の性格について調査したところ、再分配政策を重視し財政赤字をもたらしたという革新自治体の

一般的なイメージとは大きく異なることが分かった。そのため、2017年度の日本政治学会研究大会において、山田良介・九州国際大学准教授とともに「革新自治体における生活保護費の削減」というタイトルで報告を行った。また、この内容を論文にまとめ、雑誌に発表した。

第4年度は、引き続き国会議事録との照合に取り組んだ。ただし、資料の量が多いため、榑崎が初めて衆議院予算委員会の委員に就任した1968年の第58回国会に注目して、榑崎のノートと国会議事録を比較・分析した。榑崎が、予算委員会委員として初めて取り組んだのが、佐藤栄作首相の提唱した非核三原則についての質問であった。当時、社会党は党として非核三原則への態度を明確にしていなかったが、今回の調査により、榑崎が独自に調査を行い、非核三原則についての質問を組み立てていたことが明らかとなった。また、榑崎のノートと国会議事録を突合する形で検証したところ、いくつかの点で榑崎が計画通りには国会質問を進められなかったこと、また、榑崎が計画はしていたが、実際には言及しなかったことなども把握できた。これらの点を、2018年度の日本政治学会研究大会で、「日本社会党による国会質問の一側面——榑崎弥之助による「非核三原則」への追及を中心として」というタイトルで報告した。本報告では、まず、榑崎が考えていた非核三原則についての追及計画の概要を示した。その後、榑崎が、追及計画に基づいて、「ゼントルマンズ・アグリーメント」、核兵器研究開発計画、核兵器搭載艦の無害通航権の3つの視角から政府を追及していたことを示した。また、計画はしていたが実際には言及しなかったこととして、榑崎が核弾頭の有無は事前協議の対象にはなり得ないと認識していたこと、さらに、榑崎が佐藤の提唱する非核三原則に実効性がないと捉えていたことなどを示した。なお、この報告は、雑誌に論文として発表した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

篠原新「日本社会党の学制改革構想——1960年代の日教組との論争を中心として」『岐阜大学教育推進・学生支援機構年報』第2巻(2016年11月)、60-71頁(査読無)。
https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/outline/2016nenpo_201.pdf

篠原新、山田良介「革新自治体における生活保護費の削減——奥田八二知事時代の福岡県を例として」『奥田八二日記研究会会報』第1号(2018年3月)、3-14頁(査読無)。
<https://doi.org/10.15017/1916251>

篠原新「日本社会党による国会質問の一側面——榑崎弥之助による「非核三原則」への追及を中心として」『法政研究』第85巻第3・4合併号(2019年3月)、533-559頁(査読無)。
https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac_download_md/2231018/p533.pdf

〔学会発表〕(計2件)

篠原新、山田良介「革新自治体における生活保護費の削減——奥田八二知事時代の福岡県を例として」日本政治学会、2017年9月24日、法政大学市ヶ谷キャンパス(東京都千代田区)。

篠原新「日本社会党による国会質問の一側面——榑崎弥之助による「非核三原則」への追及を中心として」日本政治学会、2018年10月13日、関西大学千里山キャンパス(大阪府吹田市)。

〔その他〕

篠原新、山田良介「岩崎隆次郎元福岡県労働組合評議会事務局長聞き取り記録」『奥田八二日記研究会会報』第1号(2018年3月)、117-206頁(査読無)。
<https://doi.org/10.15017/1916273>

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。